

# 基礎看護学

# 基礎看護学

## 目標 I. 看護の基礎となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
1 看護の基本となる概念	A 看護の本質(概念)	a 看護の定義	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3 「看護の定義」 (p.8~19) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 序章 A 「技術とはなにか」 (p.2~3) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~32)
		b 役割と機能	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B 「看護の役割と機能」 (p.20~39)
		c 職業としての看護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2-3 「看護の歴史」 (p.4~7)、第4章 A 「職業としての看護」 (p.128~138)
		d 学問としての看護(主要な看護理論)	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2-4 「アメリカにおける看護学の発展」 (p.7~8)、A-3-1 「看護の理論家における看護の定義」 (p.9~18)、[資料1] 「主要な看護理論家の看護概念」 (p.318~323)
		e 看護の変遷	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2 「看護の変遷」 (p.2~8)、第4章 A 「職業としての看護」 (p.128~138) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第1章 C-3 「看護におけるマネジメントの変遷」 (p.8~13)
	B 看護の対象としての人間	a 全体としての人間	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 「看護の対象の理解」 (p.56~79)、第3章 D-3-NOTE 「全人的医療」 (p.96)
		b 成長発達する存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B 「生涯発達しつづける存在としての人間」 (p.69~75)、第3章 B 「健康とはなにか」 (p.83~87)、D-4 「健康の概念と位置づけの変化」 (p.97~100)、E-2 「私のライフコースと日本人の平均像」 (p.101~119) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~32)
		c ライフサイクルと発達課題	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A 「対象の理解 : 大人になること、大人であること」 (p.4~27) 基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2 「心理・社会的側面における発達」 (p.71~75) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~32) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-1-2 「発達段階・発達課題」 (p.6~9) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第2章 B-2 「エリクソンの漸成的発達理論」 (p.64~69)
		d ニーズをもつ存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-1 「ニード論を基本とする看護論」 (p.11~13)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論 : マズローの欲求段階説」 (p.67) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~32)
		e 生活者としての存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-1 「生活者としての人間 : 「生活」の3つの側面」 (p.76~77) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B 「対象の生活 : 働いて生活を営むこと」 (p.27~38)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		f 適応する存在	社会学：第7章『働き方』『働かせ方』と健康・病気 (p.106~120) 基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 A-3-1「看護概念のモデル」(p.15~18)、第2章 A-2「看護の使命と結びつくホメオスタシス」(p.59~60)、3『『こころ』と『からだ』にかかるストレスの影響』(p.60~64)
		g 社会・文化的存在	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-1-2「文化的ケア」(p.26)、第2章 C-1「生活者としての人間：『生活』の3つの側面」(p.76~77)
	C 人間と健康	a 健康のとらえ方	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 B「健康とはなにか」(p.83~87) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A「大人の生活からとらえる健康」(p.40~62) 公衆衛生：第1章 A-2「ヘルス(衛生・健康)とはなにか」(p.15~16) 社会学：第5章 A「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」(p.74~76)、B「健康・病気の新しい見方ととらえ方」(p.76~84)
		b 健康の諸相	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 B「健康とはなにか」(p.83~87)、D-4「健康の概念と位置づけの変化」(p.97~100)
		c 健康への影響要因	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 C「健康の関連要因」(p.88~89)、D「社会の変遷と健康観の変化」(p.89~100) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第5章 B「健康バランスに影響を及ぼす要因」(p.164~169)
		d 生活習慣とセルフケア	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 A-3-1「看護概念のモデル」(p.15~16)、B-3-4「生活習慣病対策・健康増進運動における看護への期待」(p.39)、第2章 C「健康の関連要因」(p.88~89)、D-3-1「疾病構造の変化」(p.94)、E-2-5「健康的な生活」(p.110~113) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A「大人の生活からとらえる健康」(p.40~62)、第7章「健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護」(p.204~219)
		e QOL	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 D-4-1「健康の概念」(p.97~98) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-3-2「クオリティオブライフ(QOL)」(p.59~60) 総合医療論：第1章 B-5「QOL(生活の質)について考える」(p.23) 公衆衛生：第1章 D-2-1「オタワ憲章—健康は手段か目的か」(p.37~40) 社会学：第5章 B-4「健康とクオリティオブライフ(QOL)」(p.79~80)
	D 看護における倫理	a 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章 B-1-1「インフォームドコンセントの誕生」(p.172~173) 公衆衛生：第1章 C-3「日本国憲法のなかの公衆衛生」(p.30~31)、C-4「日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権」(p.31~32)、第2章 B-1「看護職は『みんな』の権利をまもる守護神の1人」(p.47~48) 看護倫理：第2章 A-2「生命倫理の歴史」(p.22~25)
		b 医療の倫理原則	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.30~37)、第5章 C-2「医療をめぐる倫理原則とケアの倫理」(p.184~189) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 F「看護実践における倫理的判断」(p.120~128)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 患者の権利と擁護	<p><b>在宅看護論</b>：第1章 B-3「在宅看護における看護師の倫理」(p.17~18)、付章 B「訪問看護倫理要綱」(p.380~384)</p> <p><b>臨外看総</b>：第5章 B「医療に関連する法的・倫理的諸問題」(p.202~210)</p> <p><b>看護倫理</b>：第2章「生命倫理」(p.22~37)</p> <p><b>基礎看護学 [1] (看護学概論)</b>：第1章 B-2-3「倫理的配慮とプライバシー保護」(p.31~32)、第5章 B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.172~173)、C-1「看護の本質としてのアドボカシー」(p.183~184)</p> <p><b>在宅看護論</b>：第4章 E「対象者(家族も含む)の権利保障」(p.120~129)、付章 B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381~382)</p> <p><b>看護の統合と実践 [1] (看護管理)</b>：第2章 B「患者の権利の尊重」(p.21~25)</p> <p><b>クリティカルケア看護学</b>：第6章 A-1-2「権利の擁護」(p.206)</p> <p><b>看護倫理</b>：第2章 C「インフォームドコンセント」(p.29~35)、第6章 D「看護実践上の倫理的概念」(p.94~102)</p>
		d 看護職者の倫理綱領	<p><b>看護情報学</b>：第7章「患者の権利と情報」(p.136~149)</p> <p><b>基礎看護学 [1] (看護学概論)</b>：第5章 B-3「医療専門職の倫理規定」(p.176~183)</p> <p><b>成人看護学 [1] (成人看護学総論)</b>：第3章 F「看護実践における倫理的判断」(p.120~128)</p> <p><b>在宅看護論</b>：第1章 B-3「在宅看護における看護師の倫理」(p.17~18)、付章 B「訪問看護倫理要綱」(p.380~384)</p> <p><b>看護の統合と実践 [1] (看護管理)</b>：第4章 B-5「看護職の職業倫理」(p.162~165)</p> <p><b>看護倫理</b>：第7章「専門職の倫理」(p.110~125)</p> <p><b>看護情報学</b>：第6章「情報倫理と医療倫理」(p.124~133)</p>
		e 倫理的葛藤と対応	<p><b>基礎看護学 [1] (看護学概論)</b>：第5章 B-2「現代医療におけるさまざまな倫理的問題」(p.174~176)</p> <p><b>成人看護学 [1] (成人看護学総論)</b>：第3章 F「看護実践における倫理的判断」(p.120~128)</p> <p><b>在宅看護論</b>：第4章 E「対象者(家族も含む)の権利保障」(p.120~129)、付章 B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381~382)</p> <p><b>臨外看総</b>：第5章 B「医療に関連する法的・倫理的諸問題」(p.202~210)</p> <p><b>看護倫理</b>：第6章 D「看護実践上の倫理的概念」(p.94~102)、E「看護実践と倫理」(p.102~105)、第8章「倫理的問題へのアプローチ」(p.128~150)</p> <p><b>看護情報学</b>：第4章 B-4「意思決定支援」(p.76~78)、第7章 A-3「インフォームドコンセント」(p.136~138)</p>
2 看護の展開	A 援助的関係の形成	a 信頼関係の構築	<p><b>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)</b>：第1章 D「効果的なコミュニケーションの実際」(p.39~52)</p> <p><b>成人看護学 [1] (成人看護学総論)</b>：第3章 B「健康問題を持つ大人と看護師の人間関係」(p.94~100)</p> <p><b>精神看護学 [2] (精神看護の展開)</b>：第7章 A「ケアの前提」(p.2~4)、B「ケアの原則」(p.5~12)</p> <p><b>社会学</b>：第9章「患者-医療者関係とコミュニケーション」(p.140~153)</p> <p><b>人間関係論</b>：第2章 C「援助的役割を表現するためのガイドライン」(p.39~47)</p>
		b 看護の対象との協働	<p><b>基礎看護学 [1] (看護学概論)</b>：第1章 B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.30~37)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 B 「健康問題を持つ大人と看護師の人間関係」 (p.94~100)</p> <p>社会学 : 第9章 「患者-医療者関係とコミュニケーション」 (p.140~153)</p> <p>人間関係論 : 第7章 「闘病生活を支える人間関係」 (p.140~156)</p>
	B 根拠に基づいた実践	a 根拠に基づいた看護 (EBN) の概念	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-2-3 「看護の質保障に欠かせない要件」 (p.30~37)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 序章 E 「看護技術の発展と習得のために」 (p.14~15)</p>
		b クリティカルシンキング	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-2-3 「看護の質保障に欠かせない要件」 (p.30~37)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 B-2 「クリティカルシンキング」 (p.214~220)</p>
		c 問題解決過程	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 B-1 「問題解決過程」 (p.211~214)</p>
		d 標準看護計画の活用	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C-3 「看護計画」 (p.247~252)</p>
	C チームアプローチ	a チームカンファレンス	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C-2 「入院中の情報伝達と共有」 (p.42~47)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 D 「チームアプローチ」 (p.106~110)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 D-2-2 「コミュニケーション」 (p.53~54)</p>
		b 看護の継続性	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53)、第6章 B-2-3 「継続看護」 (p.211~213)</p> <p>在宅看護論 : 第1章 B-2 「医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割」 (p.12~16)</p>
		c 他職種との連携・協働	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53)、第6章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」 (p.197~199)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 D 「チームアプローチ」 (p.106~110)</p> <p>在宅看護論 : 第4章 C 「他職種との連携」 (p.93~102)</p> <p>栄養学 : 第1章 G-2 「ニュートリションサポートチーム」 (p.12~14)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第8章 H 「連携の場面とその方法」 (p.252~256)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第6章 B-4 「クリティカルケア看護にかかわる他職種との連携」 (p.218~221)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第1章 E-2 「連携職種」 (p.29~32)、3 「多職種連携のあり方」 (p.32~36)</p> <p>緩和ケア : 第2章 D 「チームの範囲と各メンバーの役割」 (p.22~32)</p> <p>臨床検査 : 第2章 「臨床検査の流れと看護師の役割」 (p.24~58)</p>

目標Ⅱ. 基礎的な看護技術について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
3 共通基本技術	A コミュニケーション	a コミュニケーションの構造とプロセス	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第1章 B 「コミュニケーションの構成要素と成立過程」 (p.22~28)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 B-1 「医療における人間関係」 (p.95~96)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 A-3 「言語障害のある患者の看護」 (p.243~247)</p> <p>人間関係論 : 第3章 A 「コミュニケーションとは」 (p.50~56)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b コミュニケーション技法	緩和ケア：第4章A「患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション」(p.54~60) 看護情報学：第1章D「情報の伝達とコミュニケーション」(p.17~21) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第1章D「効果的なコミュニケーションの実践」(p.39~52) 人間関係論：第3章C「援助的コミュニケーション」(p.61~65)
		c コミュニケーションに障害のある人々への対応	緩和ケア：第4章B「意思決定を共有するためのコミュニケーションスキル」(p.60~64) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第1章E「コミュニケーション障害への対応」(p.52~58) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章A-3「言語障害のある患者の看護」(p.243~247) 人間関係論：第3章B「コミュニケーションの障害」(p.56~61) クリティカルケア看護学：第5章F「コミュニケーション」(p.173~176)
	B 学習支援	a 学習にかかわる諸理論	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第4章A「看護における学習支援とは」(p.278~282) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章A-1-1「大人の学習」(p.89~90)、第10章「学習者である患者への看護技術」(p.258~272) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第2章A-5「学習と行動」(p.47~50)
		b 対象者に合わせた目標設定	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第4章D「看護の中に含まれる学習支援」(p.291~319)
		c 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第4章D「看護の中に含まれる学習支援」(p.291~319)
		d 個別指導・集団指導の特性と適用	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第4章D「看護の中に含まれる学習支援」(p.291~319) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第1章C-2「病院・施設における看護」(p.46~51) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章A「生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助」(p.88~94)、C「人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ」(p.101~106) 母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第2章D-1-5「保健相談の方法」(p.112~113)
	C 看護過程	a 情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章C-1「アセスメント」(p.226~239) 看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章E-3「情報の活用」(p.62~70) 看護情報学：第5章A-2「看護過程による情報処理」(p.86~87)
		b 看護問題の明確化と優先順位決定	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章C-2「看護問題の明確化(看護診断)」(p.239~247)
		c 看護目標の設定と計画	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章C-3「看護計画」(p.247~252)
		d 実施・評価	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章C-4「実施」(p.252~254)、C-5「評価」(p.254~256)
		e 看護記録の意義、必要性和種類	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章D「看護記録」(p.256~262) 看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章E-3-5「看護記録」(p.67~68) 臨外看護：第5章A-5-4「看護記録の記載について」(p.195~196) 看護情報学：第5章A-3「看護記録の構成要素」(p.87~90)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		f 報告の必要性と方法	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 E 「医療安全と医療の質保証」 (p.257~268)
		g 医療計画とクリニカルパス	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 3 章 C-3-2 「看護計画の立案」 (p.249~252) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 D-1-3 「クリニカルパス」 (p.115~117) 臨外看総 : 第 7 章 B-4-1 「クリニカルパス(治療計画書)を用いた経過の説明」 (p.255~257) 看護情報学 : 第 5 章 B-4 「クリニカルパス」 (p.100~102)
	D フィジカルアセスメント	a 看護におけるフィジカルアセスメントの意義	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 A 「ヘルスアセスメントとは」 (p.60~64) クリティカルケア看護学 : 第 2 章 B 「アセスメントの方法」 (p.19~24)
		b 問診、視診、触診、聴診、打診の基本技術	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 C-1 「フィジカルアセスメントに必要な技術」 (p.74~81)
		c 系統別のアセスメント	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 D 「系統別フィジカルアセスメント」 (p.122~194) 救急看護学 : 第 4 章 「救急患者の観察とアセスメント」 (p.95~156) クリティカルケア看護学 : 第 2 章 C 「系統別アセスメントの実際」 (p.26~37)
	E 感染予防	a 感染の成立と予防	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 A 「感染防止の基礎知識」 (p.411~414) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 11 章 D-2-4 「感染予防」 (p.304~306) 在宅看護論 : 第 4 章 D-3 「感染防止」 (p.109~112) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 D-2-3 「院内感染対策」 (p.43~50) 微生物学 : 第 12 章 C-3-2 「標準予防策」 (p.207~208)
		b 標準予防策と感染経路別予防策	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 B 「標準予防策(スタンダードプリコーション)」 (p.415~423)、C 「感染経路別予防策」 (p.423~427) 在宅看護論 : 第 4 章 D-3 「感染防止」 (p.109~112) 臨外看総 : 第 6 章 E-1 「標準予防策」 (p.224~229) クリティカルケア看護学 : 第 5 章 G 「感染予防対策」 (p.176~180)
		c 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 B-2-1 「手指衛生」 (p.415~418)、D 「洗淨・消毒・滅菌」 (p.427~431)、E 「無菌操作」 (p.432~439) 微生物学 : 第 9 章 「滅菌と消毒」 (p.143~154) 臨外看総 : 第 6 章 E-1-2 中 「手指衛生」 (p.224~226)、E-3 「滅菌物の管理」 (p.232~237)
		d 感染性廃棄物の取り扱い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 F 「感染性廃棄物の取り扱い」 (p.440~441) 在宅看護論 : 第 4 章 D-3 「感染防止」 (p.109~112) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 F-5 「廃棄物の取り扱いと管理」 (p.127~128) 微生物学 : 第 9 章 A 「バイオハザードとバイオセーフティ」 (p.144) 公衆衛生 : 第 4 章 B-4-3 「医療廃棄物」 (p.104~105)
		e 感染拡大の防止の対応	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 A 「感染防止の基礎知識」 (p.411~414)
	F 安全管理 (セーフティマネジメント)	a 医療安全の概念と安全管理対策	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 「医療安全と医療の質の向上」 (p.257~268) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 14 章 「安全確保の技術」 (p.450~467) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 E-2 「リスクマネジメント」 (p.118~119)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 誤薬の起こりやすい状況と対策	<p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 C 「安全管理」 (p.25~50)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 7 章 A 「組織としての医療安全対策」 (p.216~224)、B 「システムとしての事故防止の具体例」 (p.224~239)</p> <p>臨外看総 : 第 6 章 D 「周手術期における安全管理」 (p.217~222)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 7 章 B 「クリティカルケア看護と安全管理」 (p.229~235)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 14 章 B 「誤薬防止」 (p.451~456)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 B 「注射業務と事故防止」 (p.42~65)、E 「内服と薬業務と事故防止」 (p.94~112)</p>
		c 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 14 章 E 「転倒・転落防止」 (p.459~462)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 4 章 B 「転倒・転落事故防止」 (p.142~167)</p>
		d チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 14 章 C 「チューブ類の予定外抜去防止」 (p.457~458)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 3 章 A 「チューブ管理と事故防止」 (p.120~132)</p>
		e 針刺し事故の起こりやすい状況と対策	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 H 「針刺し防止策」 (p.443~447)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 C-2-2 「医療事故」 (p.35~43)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 7 章 B-3-3 「注射・点滴実施時の間違い」 (p.235)</p> <p>臨外看総 : 第 6 章 E-4 「職業感染防止対策」 (p.237~240)</p>
	G 安楽確保	a ケアを通じてもたらされる安楽	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 5 章 C 「身体ケアを通じてもたらされる安楽」 (p.137~141)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 11 章 C 「安全・安楽・安心を援助する看護技術」 (p.292~297)</p>
		b 安楽な姿勢・体位の特徴	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 4 章 A-1 「基本的活動の基礎知識」 (p.86~93)、A-2 「体位」 (p.93~96)、第 5 章 A 「体位保持」 (p.128~133)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 11 章 C-2 「ポジショニング」 (p.294~296)</p>
		c ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 4 章 A 「基本的活動の援助」 (p.86~115)</p>
		d 安楽を保つための医療環境の調整	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 1 章 「環境調整技術」 (p.10~21)、第 5 章 「苦痛の緩和・安楽確保の技術」 (p.128~141)</p>
	H 終末時のケア	a 死の兆候とケア	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 15 章 「死の看取りの援助」 (p.470~490)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 9 章 「人生の最期のときを支える看護」 (p.238~254)</p> <p>臨外看総 : 第 5 章 B-2 「人の死に関する問題と臓器移植」 (p.204~209)</p>
		b 死亡後のケア	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 15 章 「死の看取りの援助」 (p.470~490)</p> <p>在宅看護論 : 第 5 章 B-7 「在宅における終末期看護」 (p.183~191)</p>
		c 遺族へのかかわり(グリーフケア)	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 15 章 B 「死にゆく人と周囲の人々へのケア」 (p.473~479)</p> <p>精神看護学 [2] (精神看護の展開) : 第 11 章 B-5 「終末期の患者と家族を支える」 (p.307~312)</p> <p>在宅看護論 : 第 5 章 B-7 「在宅における終末期看護」 (p.183~191)</p>



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
4 基本的日常生活援助技術	A 環境の調整	a 環境の調整	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章「環境調整技術」(p.10~21) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第3章 E-1-3「対象者に配慮した施設・設備環境の整備」(p.120~122)
		b 病床の整備	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章 B-2「病床を整える」(p.17~21) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第3章 E-1-3「対象者に配慮した施設・設備環境の整備」(p.120~122)
	B 食事・栄養の援助	a 食事・栄養の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.24~31) 在宅看護論 : 第5章 B-2「食生活・嚥下に関する在宅看護技術」(p.147~155) 栄養学 : 第1章 B「保健・医療における栄養学」(p.8~11)、C「看護と栄養」(p.12~16) 栄養食事療法 : 第1章「栄養食事療法とは」(p.2~11)
		b 健康な食生活と食事摂取基準、治療食・療養食	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.24~31) 栄養学 : 第5章 B「日本人の食事摂取基準」(p.92~97)、第9章「臨床栄養」(p.186~242) 臨外看総 : 第1章 C-2-2「栄養状態の評価と栄養療法の選択」(p.97~100) 栄養食事療法 : 第2章「医療・福祉の場における栄養食事療法」(p.10~17)、第3章「病人食の種類と特徴」(p.20~29)
		c 食事・栄養摂取に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.24~31) 栄養学 : 第1章 C「看護と栄養」(p.12~14)
		d 食事・栄養状態のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.24~31) 老年看護 病態・疾患論 : 第3章 J「栄養評価」(p.111~113) 栄養学 : 第7章「栄養状態の評価・判定」(p.128~146) 栄養食事療法 : 第2章 C「栄養アセスメントの基本」(p.26~30)
		e 食事摂取の自立困難な患者の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 B「食事介助」(p.32~35) 栄養食事療法 : 第2章 B「栄養補給法」(p.23~26)
		f 嚥下障害のある患者の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 C「摂食・嚥下訓練」(p.35~42) 栄養学 : 第9章 F-8「咀嚼・嚥下障害患者の食事療法」(p.230~231) クリティカルケア看護学 : 第5章 M「摂食・嚥下促進」(p.196~199) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5-4「摂食・嚥下障害」(p.168~175)、B-5-3「摂食・嚥下障害」(p.222~224) 栄養食事療法 : 第3章 F「摂食・嚥下障害」(p.40~43)
		g 経管栄養法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 D-1「経管栄養法」(p.42~49) 成人看護学 [5] (消化器) : 第4章 C-2-2「食事療法・食事指導の概要」(p.124~127) 栄養学 : 第9章 B-1「経腸栄養法」(p.187~188) 臨外看総 : 第2章 C-2-3 中「経腸栄養法」(p.101~103) 栄養食事療法 : 第2章 B-2「経管・経腸栄養法」(p.24~26)
		h 経静脈栄養法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 D-2「中心静脈栄養法」(p.49) 成人看護学 [5] (消化器) : 第4章 C-2-2「食事療法・食事指導の概要」(p.124~127) 栄養学 : 第9章 B-2「静脈栄養法」(p.188~189)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			臨外看護：第2章 C-2-3「静脈栄養法」(p.100~101) 栄養食事療法：第2章 B-3「経静脈栄養法」(p.26)
	C 排泄の援助	a 排泄の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-1-1「排泄の意義」(p.53~54)
		b 排泄に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-1「自然排尿および自然排便の基礎知識」(p.53~59)
		c 排泄のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-1-3「観察とアセスメント」(p.56~59)
		d 自然な排便・排尿を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A「自然排尿および自然排便の介助」(p.53~66) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 A-4「排尿障害のある患者の看護」(p.247~252) リハビリテーション看護：第4章 A-5-9「排尿障害」(p.190~192)、A-5-10「排便障害」(p.192~194)、C-5-3「排尿障害」(p.245~248)、C-5-4「排便障害」(p.245~250)
		e トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄の援助方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-2-1「トイレにおける排泄介助」(p.59~61)
		f 床上での排泄の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-2-2「床上排泄援助」(p.59~61)、A-2-3「おむつによる排泄援助」(p.61~66)
		g 浣腸・摘便	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 C「排便を促す援助」(p.73~78)
		h 膀胱留置カテーテルの挿入と管理	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 B「導尿」(p.67~73) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 A-4「排尿障害のある患者の看護」(p.247~252) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第6章Ⅳ-A「処置を受ける患者の看護」(p.265~269)
		i 尿失禁・便失禁のある患者の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A「自然排尿および自然排便の介助」(p.53~66) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第3章 B-1-3「尿失禁」(p.47~48)、第6章Ⅱ-3-4「尿失禁のある患者の看護」(p.216~220)
	D 活動と休息の援助	a 活動・運動の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.86~93)
		b 活動・運動に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.86~93)
		c 活動・運動のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A「基本的活動の援助」(p.86~115)
		d 体位変換	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-3「体位変換」(p.96~104)
		e 床上運動・活動の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.86~93)
		f 歩行時の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-4「移動」(p.104~106)
		g 車椅子への移乗、車椅子での移動・移送	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-5「移乗・移送」(p.106~113) リハビリテーション看護：第4章 A-5-2「運動障害」(p.148~164)、C-5-1「運動麻痺」(p.231~244)
		h ストレッチャーへの移動、ストレッチャーでの移送	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-5「移乗・移送」(p.106~113)
		i 療養生活におけるレクリエーション	社会保障・社会福祉：第8章 C「集団援助技術(グループワーク)」(p.228~234)
		j 休息・睡眠の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.116~122)
		k 休息・睡眠に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.116~122)
		l 休息・睡眠のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.116~122)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		m 休息・睡眠を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B「睡眠と休息の援助」(p.116~126)
	E 清潔・衣生活の援助	a 清潔・衣生活の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-1「清潔の援助の基礎知識」(p.145~149)、B-1「援助の基礎知識」(p.192~194)
		b 清潔・衣生活に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-1「清潔の援助の基礎知識」(p.145~149)、B-1「援助の基礎知識」(p.192~194)
		c 清潔・衣生活のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-1「清潔の援助の基礎知識」(p.145~149)、B-1「援助の基礎知識」(p.192~194)
		d 清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章「清潔・衣生活援助技術」(p.145~200) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5「障害とリハビリテーション看護」(p.145~196)、B-5「障害とリハビリテーション看護」(p.201~226)、C-5「障害とリハビリテーション看護」(p.231~259)
		e 身体各部の清潔の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2「清潔の援助の実際」(p.149~192)
5 診療に伴う技術	A 呼吸・循環・体温調整	a 呼吸・循環・体温調整のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章「呼吸・循環を整える技術」(p.202~247)
		b 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 A「体位保持」(p.128~133)、第7章 C「排痰ケア」(p.215~226) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第6章 B-4「呼吸困難のある患者の看護」(p.239~242)
		c 血圧・血流を保持する姿勢	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.86~93)、第5章 A「体位保持」(p.128~133)
		d 酸素吸入の適応と方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.202~207) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114)、第6章 D-2「酸素療法を受ける患者の看護」(p.250~254) 臨外看総 : 第2章 B-2-1「人工呼吸の目的と適応」(p.85~89) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-1「酸素療法」(p.152)
		e 口腔内・鼻腔内・気管内吸引	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B-2「一時的吸引」(p.208~212) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-3「気管内吸引の技術」(p.154~155)
		f 胸腔ドレナージの管理	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 C-3「持続的吸引」(p.212~214) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-6「胸腔ドレナージ」(p.126~130)、第6章 D-5「胸腔ドレナージを受ける患者の看護」(p.278~280) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第3章 A-3-3「ドレーン管理におけるおもな危険とその要因」(p.126~128) 臨外看総 : 第3章 A-1-6「体腔穿刺」(p.142~146)、付録 B「排液(ドレナージ)の管理とドレーン」(p.437~438)
		g 排痰法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 C「排痰ケア」(p.215~226) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-4-2「気道の清浄化」(p.120~121)、第6章 B-1「咳嗽・喀痰のある患者の看護」(p.232~234) 臨外看総 : 付録 A「排痰法」(p.434~435)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		h 温電法・冷電法	リハビリテーション看護：第5章 A-6-5「看護」(p.272～280) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第5章 B「電法」(p.133～137)
		i 保温・体温管理	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第5章 B「電法」(p.133～137)、第7章 F「体温管理の技術」(p.235～242) クリティカルケア看護学：第5章 E「体温管理」(p.170～173)
	B 創傷管理	a 創傷の治癒過程	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.250～255) 臨外看総：第3章 A-2-3「創傷管理法」(p.149～152)、第9章 D「創傷治癒の看護」(p.363～371) 救急看護学：第6章 O「創傷処置」(p.341～342) クリティカルケア看護学：第3章 I「創傷とケア」(p.98～105)
		b 創傷のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.250～255)、B「創傷処置」(p.255～265) 救急看護学：第5章 I-1「筋・骨格系の観察とアセスメント」(p.147～149)
		c 褥瘡の予防と治癒の促進	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 C「褥瘡予防」(p.265～271) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 A-13「褥瘡の予防と看護」(p.291～296) 成人看護学 [12] (皮膚)：特論「褥瘡患者の看護」(p.238～255) 臨外看総：付録 C「褥瘡の予防と処置」(p.439～441) クリティカルケア看護学：第3章 I-2-2「褥瘡」(p.102)
		d ドレッシング・包帯法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 B「創傷処置」(p.255～265) 臨外看総：第3章 A-2-3「創傷管理法」(p.149～152)、第9章 D-2-1中「手術創部の処置」(p.366～368)
	C 与薬	a 与薬における看護師の役割	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 A-2「看護師の役割」(p.275～277) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 E-2-2「看護業務の視点で内服と薬業務の危険とその要因を知る」(p.99～105)
		b 薬物療法の基本	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章「与薬の技術」(p.274～322)
		c 薬剤の種類と取り扱い方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章「与薬の技術」(p.274～322)
		d 与薬方法と効果の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章「与薬の技術」(p.274～322)
	D 救急救命処置	a 生命の危機的状況のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 A-2「急変時における初期対応」(p.330～332) 臨外看総：第4章 A-2-2中「バイタルサインの評価と観察」(p.172) 救急看護学：第4章「救急患者の観察とアセスメント」(p.95～156) クリティカルケア看護学：第2章 C「系統別アセスメントの実際」(p.26～37)
		b 一次救命処置	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.336～346) 臨外看総：第4章 A-1「救急処置の範囲と対象」(p.170～171) 救急看護学：第5章 A-1「一次救命処置(BLS)」(p.160～170)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 止血法	クリティカルケア看護学：第5章 A-1 「一次救命処置」(p.146~149) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 C 「止血法」(p.348~351) 臨外看総：第3章 A-1-1 「止血」(p.140~142)
		d 胃洗浄	救急看護学：第6章 B 「止血法」(p.289~295) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第12章 D-2 「胃洗浄」(p.405~407) 救急看護学：第6章 L 「胃管挿入・胃洗浄」(p.324~327)
	E 生体機能のモニタリング	a 診察・検査時の看護師の役割	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第11章 A 「症状・生体機能管理技術の基礎知識」(p.356~357)、第12章 A 「診察の介助」(p.388~389) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第11章 C-1 「モニタリング」(p.292~294) 臨床検査：第2章 A-3 「検査における看護師の役割」(p.26~28)
		b 検体検査(尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、髄液)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第11章 B 「検体検査」(p.357~369)、第12章 C 「穿刺の介助」(p.397~403) 成人看護学 [5] (消化器)：第4章 B-1 「糞便検査」(p.78~81) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第4章 B-1 「尿の検査」(p.70~74) 臨床検査：第3章 「一般検査」(p.62~86)
		c 生体検査	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第12章 B 「生体検査」(p.389~397) 臨床検査：第10章 「生体検査」(p.272~333)
		d 経皮的動脈血酸素飽和度(SpO <sub>2</sub> )の測定、血糖測定	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第11章 B-1 「血液検査」(p.357~363)、C-3 「SpO <sub>2</sub> モニター」(p.376~378) 成人看護学 [2] (呼吸器)：第4章 B-8-2 「動脈血ガス分析」(p.101~108) 成人看護学 [6] (内分泌・代謝)：第4章 B-3-1 「血糖値と高血糖状態の評価」(p.75~76) 臨外看総：付録 D 「パルスオキシメーター」(p.448~450)
		e ME 機器の取り扱いとモニタリング	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第11章 C 「生体情報のモニタリング」(p.370~384) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：付章 「医療機器の原理と実際」(p.369~405) 臨外看総：付録 D 「代表的な医用電子機器の取り扱い」(p.442~447)

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
6 看護の役割と機能を支える仕組み	A 看護の場に応じた活動と専門分化	a 在宅における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第6章 B-2-2 「地域における看護」(p.204~213) 在宅看護論：第1章 A 「在宅看護の目ざすもの」(p.4~10)
		b 医療施設における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第6章 B-2-1 「医療施設における看護」(p.199~204) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第1章 C-2 「病院・施設における看護」(p.46~51)
		c 保健福祉施設における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第6章 B-2-1 「医療施設における看護」(p.199~204)、B-2-2 「地域における看護」(p.204~213)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 看護職の各種資格と活動(認定看護師、専門看護師の活動)	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第4章 B 「看護職の養成制度と就業状況」(p.138~145)、C-3 「専門看護師・認定看護師・認定看護管理者」(p.149~151) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第4章 B-6 「看護職の教育制度」(p.165~170)
	B 継続看護	a 施設内における継続	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」(p.40~53)、第6章 B-2-3 「継続看護」(p.211~213)
		b 施設間における継続	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」(p.40~53)、第6章 B-2-3 「継続看護」(p.211~213)
		c 退院調整	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」(p.40~53)、第6章 B-2-3 「継続看護」(p.211~213) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第2章 「健康状態の経過に基づく看護」(p.58~132) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第13章 「退院支援の看護技術」(p.356~389) 在宅看護論 : 第4章 C-6 「入退院時における医療機関と訪問看護の連携」(p.97~102)、第6章 A-1 「退院前(在宅療養準備期)」(p.264~267)
	C 保健・医療・福祉の連携	a 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割・活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」(p.40~53)、第6章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」(p.197~199) 在宅看護論 : 第4章 C 「他職種との連携」(p.76~84) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 D-4 「他職種との協働」(p.54~60) 社会保障・社会福祉 : 第8章 F 「連携の重要性」(p.241~245)、G 「社会福祉実践と医療・看護との連携」(p.245~252)、H 「連携の場面とその方法」(p.252~256) 臨外看総 : 第6章 B 「チーム医療と看護師の役割」(p.213~215)
		b 他職種との連携	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C-4 「多職種チームとしての情報共有と継続的かかわり」(p.48~51)、第6章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」(p.197~199) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 D 「チームアプローチ」(p.106~110) 在宅看護論 : 第4章 C 「他職種との連携」(p.93~102) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 D-4 「他職種との協働」(p.54~60) 社会保障・社会福祉 : 第8章 F 「連携の重要性」(p.241~245)、G 「社会福祉実践と医療・看護との連携」(p.245~252)、H 「連携の場面とその方法」(p.252~256)
		c 保健・医療・福祉の連携を支えるしくみ	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C-4 「多職種チームとしての情報共有と継続的かかわり」(p.48~51)、第6章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」(p.197~199)、B-2-3 「継続看護」(p.211~213) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 D 「チームアプローチ」(p.106~110) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 D-4 「他職種との協働」(p.54~60) 社会保障・社会福祉 : 第8章 F 「連携の重要性」(p.241~245)、G 「社会福祉実践と医療・看護との連携」(p.245~252)、H 「連携の場面とその方法」(p.252~256) 臨外看総 : 第6章 B 「チーム医療と看護師の役割」(p.213~215)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
	D 看護管理	a 看護管理の概念	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 D-1 「看護サービスの管理とはどのようなことか」 (p.237~238)、D-2 「看護管理システム」 (p.238~241) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 1 章 「看護とマネジメント」 (p.1~14)
		b 看護組織と職務	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 D-3 「組織」 (p.241~247) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 B-3 「看護の組織化」 (p.83~87)
		c 看護業務管理と看護基準	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 D-5 「人的資源の管理」 (p.251~257) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 E-2 「看護基準と看護手順」 (p.61~62)
		d 安全管理 (セーフティマネジメント)	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 E 「医療安全と医療の質保証」 (p.257~268) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 E-2 「リスクマネジメント」 (p.118~119) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 C 「安全管理」 (p.25~50) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 7 章 A 「組織としての医療安全対策」 (p.216~224) 臨外看護 : 第 6 章 D-3 「危険防止対策」 (p.219~221) クリティカルケア看護学 : 第 7 章 B-1 「リスクマネジメント」 (p.229~231)
		e 看護提供システム	看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 C-2 「看護ケア提供システム」 (p.93~97)
		f 継続教育、キャリア開発	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 C 「看護職者の教育とキャリア開発」 (p.145~152) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-6-2 「継続教育」 (p.167~168)
		g 看護職員の労働安全衛生	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 D-5-3 「看護管理と労働安全衛生」 (p.256~257) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 D-3 「労働環境」 (p.110~118)
	E 看護制度、看護行政	a 看護制度の変遷	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 A 「職業としての看護」 (p.128~138)、B 「看護職の養成制度と就業状況」 (p.138~145) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 D-4 「看護政策と制度」 (p.175~179)
		b 看護教育制度の変遷	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 A 「職業としての看護」 (p.128~138)、B 「看護職の養成制度と就業状況」 (p.138~145) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-6 「看護職の教育制度」 (p.165~170)
		c 看護行政の組織	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 C-2-3 「看護サービスにかかわる行政のしくみ」 (p.221~222) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 D-4 「看護政策と制度」 (p.175~179)
		d 看護にかかわる診療報酬	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 C-3 「看護サービスと経済のしくみ」 (p.222~228) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 D-3 「看護ケアの対価」 (p.175~177)
		e 看護職員の確保	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 C-4 「看護の人員配置基準と看護サービスの評価」 (p.228~236) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-3-2 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 (p.157~158)
		f 看護職員の労働環境	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 C-1-4 「看護職者の労働にかかわる法」 (p.219~220)、D-5-2 「労働環境の整備」 (p.252~256)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 D-3 「労働環境」 (p.110~118)